

安政大地震絵巻

この図は、東京芝増上寺境内にある三康図書館所蔵の「安政大地震絵巻」から選んだものである。この絵巻は卷子本で、絵は約25枚ある。詞書のついていない絵も含まれている。冒頭には、江戸市中の番組ごとの町屋の被害と死者数の一覧がついている。

ここにいう安政大地震は、安政2年10月2日午後10時ごろに発生した江戸直下型地震のことで、マグニチュードは6.9と推定されている。江戸の最大震度はⅥであった。被害は東京湾沿岸を中心とし、下町に集中し、新宿以西は無事であった。現在の世田谷区の村々では被害のない所が多かった。また、江戸川方面では著しい液状化現象が見られた。

この絵巻の最初の数枚は、一般的な被害と火事の様、および地震後の避難の様子、死骸のとり片づけ、炊き出しの様子などを示している。写真1はそのうちの一枚で、ある家の2階が壊れる様子である。チャブ台と三味線がみえるので料理屋かと思われる。人々の慌てふためく様子がよくわかる。

それに続く絵は、地震のときのエピソードを描いたもので、幽霊に関するものが多い。写真2はその一つで、詞書は次のようになっている。

「此度地震ニ而吉原中類焼いたし死人おびたゞしく有之、右焼跡夜廻り順番ニ相当り其節雇イ人一夜相頼金巻分式朱宛ニ而雇申候処一晚ニ而皆断申候其故いかにと申ニ鉄棒ヲ引行ニ其鉄棒いかにも重くガラガラと引事不叶力を入一晚廻り翌朝は重荷ヲ背負候ことく筋骨惣身いたし難儀ニ及び右ニ付皆々おそれ一夜切りニて断申候全く死亡靈魂の仕業と物語也」

絵を一枚一枚よく見つめると、文字だけではなくは伝わってこない情報も発見できる。谷中天王

寺の五重塔の九輪が折れて落ちたというが、どの部分が折れたのか、絵をみれば一目瞭然であるし、その上、九輪のさし渡しが五尺であるという有り難い情報までがついている。また、地震後に建てられた御救小屋の一つ、浅草御救小屋では博矢をしていることがバレて、御救小屋がとりつぶしになったという。これが真実であるかどうかは別として、こういう情報は幕府側の史料には見出し難いものである。

この絵巻の最後の絵は、詞書「此度地震の絵板元いたし候ニ付絵屋五人組十二月五日町奉行へ召捕ニ相成り入牢いたし、地震の絵売候事法度に相成る」がついていて、板元が問い詰められ頭をかいている絵柄になっている。全体として、この絵巻は、庶民の視点でとらえたものとみることができる。

この絵巻とは別に、東京大学史料編さん所に「江戸大地震之図」という卷子本がある。これも安政2年の江戸地震をテーマにしたもので、薩摩藩島津家旧蔵のものである。

これには詞書はない。また、絵に切目はなく、平常の江戸の賑いから始まって、地震当夜の町々の嵐の前の静けさ、地震による町家の被害と、これに続く火災、跡片づけ、避難小屋、復興の槌音が続いている。全体としては一般的情况を描いたものであるが、描写はしっかりして、正確である。逃げ惑う人々の表情も出ている。

しかし、やはり権力者側の絵というのであろうか、武士階級の被害の様子は描かれていない。前者がエピソードとして、武士階級を多少とも皮肉な目でみているのとは好対照をなしている。

この二つの絵巻を一堂に観覧できる機会が訪れることを願っている。

東京大学名誉教授／宇佐美龍夫

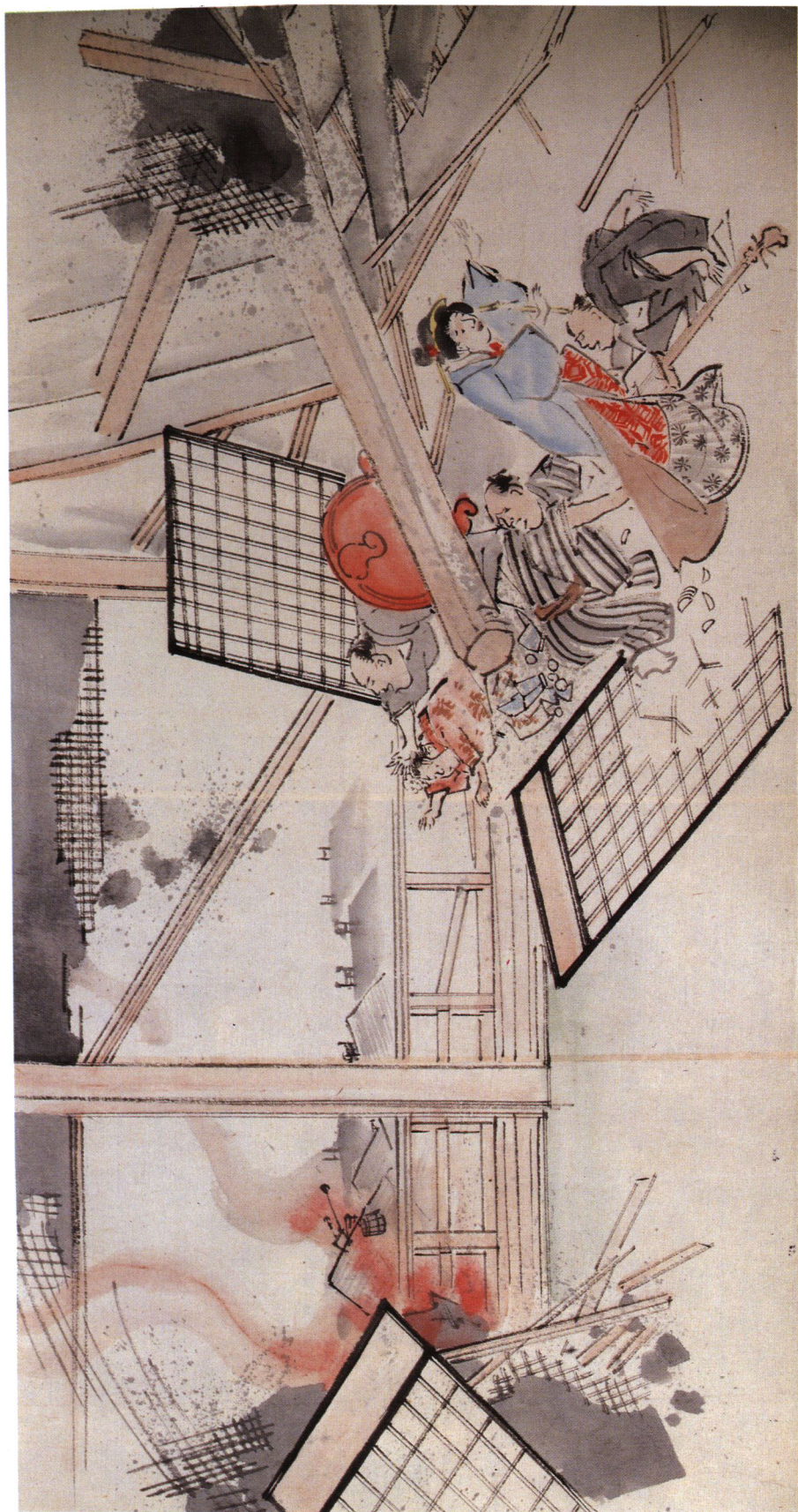




写真 2